

## 目次

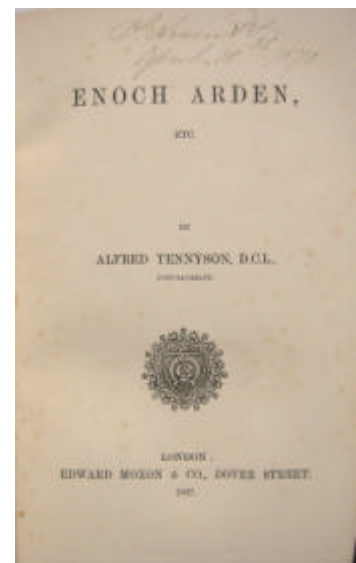
貴重書紹介 Enoch Arden .....	P.1
書を見る楽しみ (長島 弘) .....	P.2-3
図書館からのお知らせ .....	P.4

## アルフレッド テニスン『イノック・アーデンそのほか』(Enoch Arden, etc.)

ヴィクトリア朝の桂冠詩人アルフレッド テニスン(Alfred Tennyson, 1809~1892)の数多い詩のうち、最もよく読まれた「イノック・アーデン」(Enoch Arden)以下断片的な「習作」(Experiments)まで16篇を収め、当館は1864年モクスン社(Edward Moxon)刊の初版本2点と再版本4点を所蔵する。サイズは8°(octavo、ほぼ新書版と同じ大きさ)、初版・再版ともに暗緑色のクローズ装(刊行者の装丁)で、タイトルページに刊行者の紋章を印刷するのが再版本。原装のままに伝えられ、風趣掬すべき書物だが、当館の初版本には刊行時の出版案内が折り込まれており、これこそ珍品中の珍品である。

『イノック・アーデンそのほか』は、刊行直前の校正刷りまで『炉端の牧歌』(Idylls of the Hearth)を書名としていたが、急に標題のようなそっけないタイトルになった。内容は両者まったく同じで、タイトルページのみのみさしかえである。トマス・ワイズ(Thomas Wise)の『アシュリー文庫(The Ashley Library)目録』第7巻によると、ごく少数の『炉端の牧歌』版がテニスンの友人や書評家に手渡されたらしいのだが、ちょっとあやしいところもあって、ジョージ・マーシャル(George Marshall)の『テニスン提要』(A Tennyson Handbook) - とてもよく出来た本だと思う - は、テニスン夫人の意見による題名変更と、現存の『炉端の牧歌』版に贋作の可能性を指摘する。

もうひとつおもしろいのは、テニスンの母校であるケンブリッジ大学編の『イノック・アーデンそのほか』がボストンでも刊行されており、この本のタイトルページには初版と同じく1864年の文字が見える。初版は8月の出版とされるので、『炉端の牧歌』(校正刷り)? 『イノック・アーデンそのほか』(モクスン社版)? 同(ボストン版)と、わずか数ヶ月の間にめまぐるしく作りかえられたことになる。ボストン版は比較的珍しく - Nineteenth Century Short Title Catalogue Vol.40を参照のこと - 、当館には残念ながら所蔵していないので、南園文庫本によって検すると、タイトルページ裏の書目案内と目次に小異が見られる。なお、同文庫は緑のモロッコ皮装と暗紫色モロッコ皮装のモクスン社刊初版本を蔵し、どちらも贅沢な造本。後者には「October 19 1864」の書き入れがあって、刊行後まもなくの購入とわかる。(4頁につづく)



再版タイトルページ

## 書を見る楽しみ

長島 弘（税理士・産能短大講師）

私は、字の下手さには絶対の自信がある。こう言えるぐらい、見るも無惨な自分の字が嫌いで、ずっとコンプレックスを持ち続けている。最近はワープロという便利なものができ、また税理士の仕事上作成すべきいろいろな書類も、機械が印刷まで綺麗にしてくれるようになった。もちろん様々なソフトもそろっている。おかげで一昔前と比べると、手書きで書いて出さねばならない書類がうんと減ったから良いが、それでもまだ手で作成しなければならない書類が少なからずある。そうすると書いては眺め、気に入らないところを砂消しゴムで消して書き直し、また眺めては消すというむなしい作業の繰り返しで、結局不満ののこるまま、仕方なしに提出することになる。

このような私は、きれいな字を見ると無条件で惚れ惚れしてしまう。毛筆というあの不安定な筆記具で、よくも美しく端正な字が書けるものだと感心してしまうのである。なかでも、奈良時代の写経は実にすばらしい。殆ど同じ大きさで、一点一画おろそかにしない楷書の、非常に整った漢字が、整然と揃って書かれている。消しゴムや修正液で消すわけにはいかないのだから、途中で間違えようものならその1枚分すべて書き直しである。大変な緊張だろうと感心するばかりである。とくに紫紙や紺紙に金銀を使って書かれたものは、その感が深い。そして千数百年前に作られた端正な姿のまま現在伝わっているのを見ると、よくぞ残ってくれたと感心するばかりである。さらに平安時代になると、金泥と銀泥が一行おきに使われている金銀交書経、見返しに仏画が描かれているもの、天地の余白に箔を散らすなど、装丁が一層見事になる。こうなると字の美しさだけではなく、典籍全体が持つ荘厳な雰囲気、また惚れ直してしまうのである。



大般若経 天平年間書写 永恩加點識語

仏教に関連するものとして、もう一つ好きなのは、禅僧の墨蹟である。含蓄ある短い言葉が勢いある筆使いで書かれており、解説書片手にその言葉の意味を考えながら見ると、高僧の思想の一端に触れられるようで、とても面白いものである。ただこの場合は、書道の素人で悪筆の私がこんなことを言っただけは誠に恐縮だが、必ずしも美しい字ばかりではない。いったいどうしてこれが国宝や重要文化財なんだろうか、専門家に教えて貰いたいと思うものが沢山ある。しかし、じっと見ていると味が出てくるものが非常に多い。特に仙崖や白隠といった禅僧が書いた書は、一緒に書かれている禅画とともに見ていると、本当に味があって飽きることがない。そしてこの場合は、字にコンプレックスを持つ私が、羨望のまなざしで見ている写経などの美しい字と異なり“ホッとする”字なのである。決して綺麗ではないが味がある字なら、(身のほど知らずなことを言って甚だ恐縮だが)自分でもなんとか書けそうな気がしてくるのである。

あともう一つ好きなものは、文学の書物。特に和歌などを書いたひらがな文字である。それも美しい料紙に書かれたものは、料紙のすばらしさと調和して実に見事である。ただ、これはいわゆる変体仮名で書かれているため、まったく読めない。したがって実は判断の基準を持っていないので、本当はそれが優れた筆跡かどうか、美術史的に意味があるかどうか、分かるはずもないのである。つまり、全く自分の主観的な好みで見ている。おまけに何が書いてあるかも分からない。しかし、だからこそ単純に、字そのものが美しく感じられるかどうかだけの、手前勝手な鑑賞ができるのである。美しい字、自分には絶対に書けないだけに、憧れて鑑賞を楽しんでいるのである。

書物や古筆や墨蹟の展示があるたびに、時間を作って全国各地を見て回る。そこで図録を買い込むから、旅費の他に物入りも多く、頭痛の種である。またその図録がやたら重いしかさばる。置き場所に困るのである。それでも懲りずに、近々奈良へ出かける予定。

(ナガシマ ヒロシ)



金剛院切 (伝亀山天皇筆)

## 図書館からのお知らせ

### 3月に卒業する皆さんへ

図書館で借りた本の返却を忘れていませんか？  
返し忘れていない本がないかどうか、もう一度確かめましょう。

最終返却期限は3月15日(火)です。

皆さんの借りている本は、続いて後輩が利用するものです。返却されないと困る人がたくさんでできます。後輩たちのためにも必ず返却してください。また、借りたまま卒業すると、実家や就職先に督促の連絡をすることになります。

### 卒業後も本を借りたい方は

500円の登録料で、1年間(申請日から翌年の申請日まで)有効な『図書館利用カード』を発行します。4月以降の申し込みとなります。

貸出冊数3冊、貸出期間1ヶ月です。ぜひ、ご利用ください。即日発行で、発行したその日から利用できます。

**視聴覚室は2月1日(火)～4月8日(金)まで閉室します。**

(1頁よりつづく)

所収の16篇中「イノック・アーデン」には邦訳が備わる(岩波文庫)けれども、是非原典で読んでほしい。上記の訳はこなれているだけにかえて、テニスの壮麗な用語や伏線の見事さに気づきにくくなってしまっているからである。917行のこの無韻詩を、感傷過多あるいは説教臭いなどおとしめる向きもあるが、万人を動かす力を持った佳品。ちなみに、詩人没後しばらくして(1900年9月)ロンドンに到着し英文学研究に没頭した夏目漱石は、おおむねテニスに好意的であり(『文学論』第4編)、『文学評論』では「イノック・アーデン」から相当量の引用を行い、高く評価する。

アゴラ - 鶴見大学図書館報 - 第114号 2005年2月23日発行

編集・発行 鶴見大学図書館

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 Tel:045-580-8274 Fax:045-584-8197

鶴見大学図書館ホームページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>